

アメリカ N.Y. ロチェスター市を訪ねて

松尾 英夫

○二〇一二年・一〇・三 すばらしい秋晴れの日、長崎親善人形の会の会員7名は、次の目的を持ってアメリカへ出発しました。
第1はロチェスター市の人々との交流を深めること。
第2は親善人形長崎瓊子の85才の誕生会を開くこと。



ロチェスター市の小学生の作品

第3はロチェスター市の小学校でキッズゲルニカのワークショップをすること。
家を出て約25時間かかってロチェスターの空港に到着しました。空港には夜10時すぎというのに10名もの人達が迎えに来て下さいました。皆さんで握手をしたり、ハグをしたりと喜びと懐かしさが続き、なかなか終わりませんでした。
私はこの時、ロチェスターの人々との交流が現在までも続いているのを確信しました。

○2日目、朝、ロチェスターの人達が3台の車で私たちを瓊子のいる博物館へ連れて行ってくれました。
倉庫の中の箱の中に寝ていた、「瓊子」と「鶴子」を出してもらい、長崎より持つて行った、タペストリーやお菓子などを飾り、誕生会を始めました。

それから、田上長崎市長よりあずかってくつったメッセージを読みあげ、書や六曲屏風の絵など、おみやげを手渡しました。そして参加者全員で誕生祝の歌を歌い、ロチェスターの人達が用意してくださったケーキにナイフを入れ、誕生日を祝って皆さんで楽しく食べました。
昼食は悦子さん宅でのホームパーティーで、多くの人たちが集まって下さいました。
私と山下会長の二人は、途中からナイヤガラ、アメリカ滝見学に行きました。実際に見る滝の中、水の量、そして水しぶき等、その雄大さと迫力に大いに感動しました。

夜はスエ子さん宅でのホームパーティーでした。ワインを飲みながらお話がはずみ、楽しい時間を過ごしました。

○3日目、ロチェスター市第36小学校でのキッズゲルニカのワークショップです。

学校に着くなり絵を描く準備に取りかかり、10時にはスタートしました。しかし子供の数が6年生5名だけだったので5年生も加えてもらい、日本人会の人達も参加して、平和を願う「虹と私の好きなもの」をテーマに描いてもらいました。

10時半頃には山下会長、他3名はロチェスター市長を訪問するため市役所に向いました。ここでも長崎市長のメッセージを届け今後

交流を深めて行くよう会談を行いました。話が弾み予定時間をオーバーして行われました。

子供たちは12時には作品を完成させようとガンバリました。12時過ぎに教室に来た校長先生は入ってくるなり作品を見て「わあー」と感動されました。それ位素晴らしい作品が出来上っていたのです。

ワークショップが終って子供達といっしょに昼食をいただきました。子供達が私達一人一人にたべものを運んでくれましたし、しかもこのたべものを一人の先生が今日のために作ってくださったことを知って感謝で胸がいっぱいになりました。

夜は中華料理店での食事会でした。日本人会の人達や博物館の学芸員の方など集まってもらい交流を深めました。

○4日目、朝から町の教会で私達を迎えての「JOY」という日本人会の人達の集まりの会に参加しました。それぞれがたべものを持ちよつた交流会でした。「おにぎり」や「かぼちの煮物」など日本的なたべものがたくさんありました。この集会では「瓊子」のことを話し、私たちがロチェスターに来た理由を知ってもらいました。その後、ロチェスターの空港へ行き、次の訪問都市シカゴへ出発しました。

○シカゴの街の中では300mもあるビルに案内してもらい、そのビルの中を散策し、各々おみやげを買つたりしました。又シカゴ美術館にも行き、多くの素晴らしい絵を鑑賞しました。

今回の旅では私達の目的は充分達成できたと思います。ロチェスター市との交流は更に深まり、子供達は「夢」をもつていくことを改めて知りました。これからは瓊子を中心に友好を深めて行くことが世界平和へ継がついていくと再確認することが出来ました。

(長崎親善人形会)

風信

○今月は何はともあれ、フィリピン大災害被害者の方々へ御見舞を申し上げますと共に、何か御必要の物を御届けせねばと考えている。

○次に十二月と言えば師走の月であり、何に彼と忙しく、昔は年末になると「餅つき屋サン」が家々を回り、各家では鏡餅や門松の準備、台所では正月

料理の事で忙しくしておられた。更に、戦前の長崎の家では「幸木」と言つて入口近くの壁に野菜や塩鱈等が長い棒に下げてあつたのを覚えていた。

○中でも正月の長崎雑煮は全国的にも有名で、多くの資料が今も残つているので、私も長崎雑煮と長崎県内各地の雑煮の資料を集め「長崎学・続食の文化史」・『続々食の文化史』(長崎純心大学博物館刊)等に掲載させて戴いた。

○更に長崎旧記を見ると、出島オランダ屋敷内では冬至の日になると「オランダ冬至」という出島のオランダ人にとっては最も重要な年中行事があり、そこにはオランダ通詞をはじめ出島乙名等出島関係者を招いた祝宴が開かれていた。この事については太田蜀山人も記録に残しているし「長崎古今集覧名勝図絵」には其の饗宴の図ものせてある。

○今年の冬至は十二月二十二日である。

前述の「オランダ冬至」というのは、「多分、出島のオランダ人は禁教時代の我が国にあつて、秘かにクリスマスの祝いをしていたのであろう」と古賀二郎、武藤長蔵、小澤敏夫等の諸先輩方は記しておられる。其の理由は冬至の日がクリスマスに近い日である事、更に其の日に用意されたオランダ料理の内容から見ても実証できると言われている。

○最後に、今年中の私の深い思い出としては、次の二つの事があつた。

一つは、インドのネール首相から三十九年前、長崎市に「平和祈念のため贈呈された佛舍利」が、十一月十六日午前十時より浦上の長崎平和記念公園の原爆供養塔内に安置されることになり、田上長崎市長・市内の各宗教者・一般市民の皆様も多く参加された式典があり、私も参加させて戴き、大いに感激しました。

二つは、私越中哲也自身NHK長崎放送局・NBC長崎放送局より感謝状を戴いた事である。前者は長崎放送局創立八十年を記念し、戦後のテレビ番組編成等に協力した事、後者は長崎くんち実況放送に二十五回出演協力したと言う事であつた。

私達は戦前、十二月と言えば必ず赤穂忠臣蔵の物語を聞いていた。その話の中で武林唯七の句に「あした またるる その宝舟」という話があつた事をおぼえている。皆様・来年は良い御年を御迎え下さいませ。

長崎歴史文化協会研究室

TEL八二二一五四〇

十八銀行公会堂前出張所2F

